

研究の窓～研究部報⑨

2022.1.19 研究部

「五感を使って仲間と共に学び続ける子」を育てる

令和3年度も、まとめの時期に近付いてきました。本校では、目指す子ども像を「五感を使い仲間と共に学び続ける子」と設定し、研究を深めてきました。今回は、今年度の実践の中から、松崎先生が実践した、4年生社会科「アイヌ民族の昔の暮らしと今につながる文化」の授業実践を単元丸ごと紹介します。

1 時間目：昔のアイヌの人たちの生活の様子を絵から見つけて予想する

9/22 昔のアイヌの人たち 北海道に住んでいる

昔のアイヌの人たちの生活をのぞいてみよう！

衣 食 住

衣：ゆがたあ、あみもの？ 布づくり？ 色紙、毛皮を使う 昔の道具はハサミで？

食：何を食べて？ 保管場所？ 魚をとる？ ヤリ？ 山菜、きのこ 井戸？ 水？ 木の葉、さのこ 米？ 動物をかく？ 1か月？

住：食べ物と保管？ わうの家、木もある、石もある、まどのようなあな、自分たちで作る？

九月二十一日（水）

昔のアイヌの人たちについて、これから調べていこう！

1枚の絵から、疑問を引き出し、単元の学習問題をつくりました。

2 時間目：シト(団子)はどのように作って食べていたのかを調べ、自然の恵みを生かす生活について考える

9/27 アイヌ民族の昔の暮らしと今につながる文化

シト(だんご)をどのように作り、どのように食べていたのかな？

アイヌ語：北海道→ヤウモシリ、和人とも交流

衣 食 住

木の実や山菜、なつ、すりつぶしている

うすきおとを使ってすりつぶす、みんなで作る！ 時間には関係がある

きれいに作る

きょうな食べ物、もったいない！！ 少くはく！！ 神様・カムイ 自然に感謝！ 保存に大切！

昔のアイヌの人たちは、みんなが協力して作り、のこす食べていたんだね！

一番粉、特別な時、おだんご、二番粉、おかず、三番粉、たのこまでして、食べるのはなぜ？

九月二十七日（月）

3 時間目：昔のアイヌの子どもたちの遊びを体験する



遊びの道具を借りて体験！五感を使って学びに浸る子どもたちの姿が印象的でした。

投げ輪突き
(ウコ カリプ チュイ)

矢と弓
(アイ ク)

4時間目：自分たちの生活と比べてなぜ昔のアイヌの子どもたちは投げ輪突きなどをしたのか考える

5時間目：子どもたちが遊んでいた話から、マレク漁について考える

6時間目：昔のアイヌの人たちは、とったサケを食べるだけではなく靴にする意味を考える



チェプケリ(鮭皮の靴)に興味津々の子どもたち。子どもたちの発言に対し切り返して具体化したり、板書に整理したりして、子どもの考えをつないでいきました。

サケの皮のよさを具体的に

サケの皮や、皮の靴の実物や靴を手にとって観察したり、全員に配付したサケとばの皮を触ったり濡らしたりしながら、「皮が水をはじくから、魚をとる時に川の中に入っても濡れない。」「皮がしなるから狩りの時に動きやすい。」など、皮のよさを追究していき、昔のアイヌの人たちの自然で生きていく知恵について考えていきました。

アイヌの人たちの自然に対する考えを深める

子どもたちは2~5時間目の学習で「捨てずに無駄なく使う」「全ての動植物や道具などの物=カムイ(神)」というアイヌの人たちの考えを学んでいました。ボロボロになった靴は、ゴミとして捨てるのではなく、「お祈りをしてカムイの世界に送り返す」という事実を提示(儀式の言葉を聞く)することで、既習を使いながらアイヌ民族の自然観について考えを深めることができました。

ピリカコタンでの現地学習でも、展示物を見たりアイヌ文様を作ったりしながら、生き生きと活動する姿が見られました。これからも、子どもたちが五感を使いながら夢中になって学習に没頭する教材化を各学年で進めていきます。